

令和5年7月21日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開会時間 9時30分

2 閉会時間 12時47分

3 教育長名 森 英夫

4 署名委員 藤原 直彦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
○	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	杉本 かおり
○	教育委員	野谷 悦

6 出席者氏名

教育部長	椎野 文彦
教育総務課長	田嶋 卓司
教育指導担当課長	倉重 成歩
教育総務課課長代理	高谷 松慶
生涯学習課長	山下 昌志
教育総務課指導班長	安藤 通晃
教育総務課教育総務班長	高橋 梓
生涯学習課スポーツ推進班長	井上 博之
教育総務課教育総務班主査	添田 理代

7 傍聴者 14名

8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和5年度7月定例教育委員会会議を開催します。

2 署名委員の氏名

藤原委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 7月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

- (藤原委員) 分離型小中一貫教育が始まったことに伴い、学校運営協議会会長情報交換会の中で、学校運営協議会の統合に向けた話しは出たのでしょうか。
- (教育指導担当課長) 令和4年度の学校運営協議会会長情報交換会で、現段階では各学校の活動を盛り上げることが大事なため、当面は現在の形態で活動を行っていく形にし、分離型小中一貫校の進捗状況等を踏まえて将来的に統合を検討していく意見でまとまりました。そのため、今回の交換会では統合に向けていく話し合いはありませんでしたが、終了後に、各中学校のグループで集まり、今後の活動計画に関する話し合いがあり、小中学校の委員さん方で情報交換をされていました。
- (藤原委員) 統一していくためには、教育委員会や校内で進めていかないと、来年度も各学校別々になってしまいます。準備が間に合わないという理由は効かないので、今後教育委員会でも話し合いができればと思います。
- (指導班長) 机上配付した資料の中の『にのみや学園の主な取り組み』は、学校運営協議会会長情報交換会でも配りました。これは、本年度のにのみや学園の取り組みの一覧になります。左側が小中一貫のワーキンググループプロジェクトや小・小なかよしプロジェクトといった児童生徒同士の交流についての内容で、真ん中が各校における校内研究プロジェクトの日程、右側がCSの取り組みの一覧等が記載されています。校長先生が各自編集することができる形になっているため、随時情報が更新されていきます。都合が合う日は、教育委員会に連絡をいただき、ぜひ来ていただければと思います。
- (杉本委員) 7月14日は学校給食地場産デーでしたが、2学期以降の予定や計画などを教えてください。
- (教育総務課長) 地場産の玉ねぎなどを継続して取り入れていく中で、無農薬野菜や低農薬野菜、地場産の野菜を学期に1回ずつ増やしていきたいと検討しています。具体的なことは決まっていないのですが、二宮町で採れるものが他に何があるかなどを探しながら計画を立てていこうと考えています。

4 付議事項

(1) 議案第5号 令和6年度小学校使用教科用図書採択 について

(教育指導担当課長) 令和6年度小学校使用教科用図書採択について資料に基づいて説明。

(指導班長) 教科用図書の採択について、これまでの経過を説明。

(教育長) 各委員に種目ごとに諮る。

[国語の国語について]

- (野谷委員) 「光村」が優れていると思います。全国の教員が行っている国語研究会の結果をしっかりと反映されており、長年の実践の積み上げが大きいと感じています。巻末の手引きの展開が他社よりきめ細かいです。具体的には、言葉に着目する中で、どの言葉に着目し、どのように捉えたらよいのかを系統的に書かれている部分が他社とは異なっていました。
- (杉本委員) 「東書」が良いと思います。3年生の教科書で点字を扱っており、凹凸がしっかりして、とても分かりやすかったです。また、3年生で点字を学んだ後、4年生の総合でも点字を学ぶため、それらの連携も意識されていました。本の紹介のページは、とても見やすく、子どもたちの目を引く工夫がされていました。著名人がおすすめの本を紹介するなど、子どもにとって、親しみを持てるような作りになっていました。「光村」は対話にとっても力を入れていると感じました。6年生では、『子どもの哲学』というページがあり、高学年において、答えのない問いについて考える機会を増やせることが大切だと思いました。
- (藤原委員) 「教出」は、巻頭のところで学び方のガイドがしっかりと掲載されており、授業やディスカッションがしやすいと感じました。「光村」は、新しい作家の作品も取り入れつつ、おなじみの文学作品も多く、家庭で保護者も一緒に楽しめる内容になっているので適していると思いました。
- (岡野委員) 今回の教科書を採択するのにあたり、全体的に2つのタイプがあることに着目して検討してみました。1つはテンションを上げた状態にして取り組む教科、生活や理科のような科目です。もう一つは気持ちを落ち着かせてじっくり取り組む教科、国語や道徳、歴史のような教科です。そういった視点から、教科書の写真のダイナミックさ、挿し絵の配置や内容、余白の大きさなどを比較してみました。国語は、3者のうち「光村」が良いと思います。「教出」は、落ち着いて取り組めるところ、「東書」は、言葉の力を重視されていると感じました。一方、「光村」は、言葉を楽しませてくれるという印象を持ちました。特にじっくり読んでほしい単元の紙面構成が、落ち着いていいなと感じました。例えば4年生のファンタジー『白いぼうし』は、文章のそばに余計な情報がなく、また、余白が大きくとられており、読むことに集中できるような作りになっていました。最近の子どもは、話の流れをくみ取るのが苦手な傾向にあると感じています。その点では、3年生に、4枚の絵からストーリーを考えさせる単元がありました。3枚目が空白になっていて、話の流れからそこを埋めるタイプの課題でした。また、6年生の最後に近い単元

では『今、私は、ぼくは』という単元がありました。卒業を目の前にした気持ちを人に伝える課題で、中学生に向かう気持ちを新たにすることで重要なポイントだと感じました。

(教育長)「光村」の意見多数を受け、各委員に国語の国語「光村図書出版」について諮る。
委員全員異議なし。

〔国語の書写について〕

- (杉本委員) 「東書」は、書き込み欄が左右両側にできるようになっているなど、ユニバーサルデザインにとっても配慮されていると感じました。また、左利きへの対応も丁寧にされていました。「光村」は 書写ねこという可愛らしいキャラクターの動きや言葉を通して、力の入れ方・抜き方を的確に伝えていました。子どもたちもとても楽しみながらできるのではないかと思います。3年生の毛筆スタートブックが充実しており、とても入り込みやすい感じがしました。また、2次元コードでは左利き等への配慮が丁寧にされていました。
- (野谷委員) 「光村」が良いと思います。2次元コードの動画が充実しており、どこに注意すればよいかとても分かりやすいと思いました。左利き等への配慮のほか、タブレットを見る姿勢なども丁寧に説明されていました。また、国語の教科書と関連することもとても大切なことだと思います。さらに、SDGs の視点を取り入れて、書写で使用した半紙がその後どのように活用されていくのか記載されているのも非常に興味深いと感じました。
- (岡野委員) 国語の教科書に合せるのが重要だという点で、最終的に「光村」が良いと思います。6年生の最後の方にプレゼンテーションの単元がありました。その内容から「東書」は文字の見せ方を大事している印象を受けました。一方、「光村」は、言葉を洗練させようという点に着目しており、フォントとワードのような違いだと感じました。最終的には、国語の教科書に合わせていくことが重要だと思います。

(教育長)「光村」の意見多数を受け、各委員に国語の書写の「光村図書出版」について諮る。

委員全員異議なし。

〔社会の社会について〕

- (岡野委員) 社会への参画意識や社会の一員であることを体感できることを視점에検討してみました。低学年3年生の『はたらく人』の単元では、各社で単元の並びが違っていました。「教出」は最初にお店の人のところに行き、次に工場か農家の人に会いに行くという流れでした。「東書」と「日文」は先に工場か農家に行き、そのあとにお店に行く流れでした。消費者の立場としては、まず商品を手にとり消費について触れ、そこから生産者につながっていくというステップが、身近なところから体験するという点で非常に

重要だと思います。その点で「教出」が優れていると感じました。また、神奈川県の記事を多く取り扱っているのも非常に重要で、二宮町に住む子どもたちにとっては、横浜や相模川水系などの身近な題材の方が身近に感じられると思います。

- （藤原委員） 授業を欠席した状況等も踏まえ動画の充実に着目して、「東書」は非常にコンテンツが充実していると感じます。また、他社の公民歴史が1冊になっているところを、2つに分けているのが良いと感じました。
- （野谷委員） 「教出」は、神奈川県の記事が圧倒的に多いことに惹かれます。「東書」は、イラストが生き生きとしていて、縄文時代、弥生時代のイラストは、人物の会話や物語が読み取れるようなイラストで、1時間でも2時間でも子どもたちが話し合えるようなものでした。藤原委員もおっしゃっていましたが、「東書」は、歴史と政治経済が分冊になっているのが良いなと考えました。終戦後の資料では、写真などが充実していると思いました。5年生では公害を扱っていますが、4大公害や昔からの公害運動には、それぞれにストーリーがありますけれど、その先の新しい関係を作っていく中で、京都市の鴨川の取り組みを細かく取り上げていて、共感できる内容で、選ぶのが悩ましく思いました。
- （岡野委員） 社会への参画意識の視点で、世の中の実際の姿を子どもたちに届けるという視点が重要であると考えて、町の人にインタビューした数を数えてみました。「教出」はインタビュー記事が190カ所以上ありました。6年生最後の単元、情報技術では、情報通信技術がさまざまな産業に応用した事例が個別に出ていますが、「教出」は何故取り組むのか書かれていました。また、今の日本の根本的な課題として、少子化や高齢化など誰もが暮らしやすい社会を目指すということが示されていることが、大きなポイントの一つになっていると感じました。

（教育長）「教出」の意見多数を受け、各委員に社会の社会の「教育出版」について諮る。委員全員異議なし。

〔社会の地図について〕

- （岡野委員） 「帝国」が良いと思いました。低学年の最初の入りで、地図とは何だろうという定義があり、地図は土地の様子を上から見たものということが書かれていました。特に自分の学校を上から見てみよう、という絵があって、自分の学校を斜めから、あるいは上から見て、それが地図になる、というイメージがとても伝わりやすいと感じました。東西南北のページも、余白があり、シンプルで見やすかったのが印象に残りました。最終ページには、日本の自然災害と防災を見開き2ページで、かなりのボリュームの情報が載っていました。大事な要素が組み込まれているのが、ポイントだと思います。地図を見ていくと、ランドマークだけの表示の地図を作っていて、日本の各場所の特徴が非常に読み取りやすいと感じました。何よりも、県名そのものがとても読み取

りやすいのが印象として感じました。編集者の数が70名と多くの人数で構成されていて、資料としての価値もかなり高いのではないかと感じました。

- (藤原委員) 「東書」は、世界の歴史との関わりでの資料を持っていて、その視点で子どもたちも見るができるのは、地図の見方として面白いなと思いました。「帝国」は、WEBのコンテンツが非常に充実していて、自宅の学習に良いと思いました。
- (野谷委員) 「帝国」は、地図資料に県の特産物や労働、企業の輸出などの情報が充実していました。「東書」は、クイズ形式で楽しく参加できたり、歴史学習できることが良いと思いました。
- (杉本委員) 「帝国」は、色を使って索引を工夫されていて、子どもたちが調べるときに、分かりやすいのではないかと思います。

(教育長)「帝国」の意見多数を受け、各委員に社会の地図「帝国書院」について諮る。
委員全員異議なし。

[算数の算数について]

- (岡野委員) 「啓林館」が一番良いと思いました。自分自身が低学年のとき算数でつまづいた経験から、最初の入りを丁寧にやって欲しいという願いがあります。数学的な思考の最小単位を徹底して繰り返して、いかに定着させるかは、ポイントの一つだと感じています。そういった点で各社を比べました。まず、1年生のとけいでは、子どもたちが間違えやすい時刻として、長針と短針が接近した時刻は読み取りにくいと感じます。例えば「9時57分」を丁寧に取り扱ってくれているのが「啓林館」と「大日本」でした。3年生から小数や分数など1より小さい数が少しずつ出てきます。小数よりも分数を先に配置しているのが「教出」と「啓林館」でした。2年生の後半で分数をやっているのが3年生の前半で分数を先に配置することで、2年生からの流れをしっかりと定着させようとしていると感じました。4年生の割り算引き算では、立てる、掛ける、引く、おろす、を操作します。この一連の流れを丁寧に繰り返しているのが「啓林館」でした。同じような視点で見ると、子どもたちが苦手なように見える割合の三用法の説明を一つの紙面に記載して比較できるようにしているのが「啓林館」でした。速度の三用法にも応用できると思うので、しっかりと定着させてもらいたいと思いました。図形は三角形が基本になりますが、4年生の面積を求める単元では、ほとんどの教科書が平行四辺形を先にやっていますが、三角形を先にやって、次に平行四辺形をやるという単元の並びになっているのは「啓林館」だけでした。先に三角形をやることは、図形の最小単位が三角形である、ということを徹底しているように読み取れました。順列・組み合わせの単元では、考える場合の数が少ない「組み合わせ」を先に配置した特徴的な単元の配置になっていました。一番驚いたのが、2年生の巻末の教材がノギスになっていることでした。エンジニアの気持ちをわかってくれている教科書だと感じました。最後

に、単体量あたりの大きさでは、よく自動車の燃費が登場しますが、電気自動車はガソリンを使わないので、そのままでは比較できません。そんなことにも応用できるように、考え方の基本を身につけて欲しいと願っています。

- （野谷委員） 私は、「教出」を推したいと思います。最初の繰り上がり、繰り下がり
の表現について、「教出」が一番分かりやすかったです。伝え方がしつこくなく一つの
単元の形で説明しているところが、子どもたちが理解しやすいと思いました。
- （藤原委員） 「日文」は、プログラミングが充実していて、ずっと使っていきたく
いと思いました。「学図」は、『中学校へのかけはし』があり、6年生の最後の方の授業で使
うことで、中学校の授業のつなぎができるのが良いと思いました。
- （杉本委員） 「啓林館」は、よくある間違えを2次元コードにしてあるので、自主学
習に役に立てることができるなど、とても分かりやすいと思います。見やすく、目当
てが明確で、色などにも工夫を感じられます。

（教育長）「啓林館」の意見多数を受け、各委員に算数の算数「新興出版社啓林館」につ
いて諮る。

委員全員異議なし。

[理科の理科について]

- （藤原委員） 他学年と連携できるのかということを中心に結果、「啓林館」を
推します。「啓林館」は、動画やスマート解説、実験サポートツールが非常に充実して
いて、たくさん実験しよう、という考え方は、とても良いことだと思いました。『思い
出そう』『考えよう』では、他学年と繋がっていて、これやったなと思うことができ、
理科が好きになるかなと思いました。「東書」の『思い出そう』というコーナーも他学
年と繋がっていて良いと思います。また、プログラミングが充実していました。
- （野谷委員） 「大日本」と「啓林館」が良いと考えています。「啓林館」は、新しい
実験方法を掲載していて、実験の手順も明確でした。「大日本」は、写真が優れてい
て、情報も充実していると思いました。単元では、6年生の最後に地球環境を扱って
いますが、横浜市内の川を例に子どもへの投げかけが充実していました。
- （杉本委員） 「啓林館」は、巻末の漫画が日常生活の役に立ちそうなヒントを手書き
風にまとめられていて、理科が身近になるような工夫があり、児童も取り組みやすいと
思いました。また、巻末の資料で書き方や伝え方を繰り返しているのが良いと思いま
す。
- （岡野委員） 冒頭でテンション上げて取り組む教科という話をしましたが、理科に関
しては、一番テンションを上げて欲しいと思います。導入部分のダイナミックさでは
「啓林館」が一番良いと思いました。他の教科書会社の表紙の写真もダイナミックで、
バッタの写真や雪の結晶など、理科そのものを楽しもう、という特徴があり、写真に興
味をそそられるような要素がありました。単元配置の点では、太陽と影と光の性質、磁

石につくものと電気を通すもの、といった関連する単元が近くに配列してあった方がやりやすいかと思えますし、ものを溶かす水溶液実験は寒い時期はなかなか溶けなかったりしますので、暖かい時期に配置してあった方がいいと思えます。5年生では天気と雲の単元があります。多くの教科書会社は、台風などの異常気象の単元が夏の後ですが、「啓林館」だけは夏の前に持ってきていました。最近の集中豪雨が夏の前に起きていることに対応したものだと感じました。振り子の実験の要素としては、振り幅、重さ、長さの3つありますが、長さ以外では振り子の1往復の時間は変わりません。振れ幅、重さ、長さの順番で実験を進めていくのは「啓林館」だけでした。3つの実験条件の並びから、変化がないという実験が続きますが、最後に振り子の周期が変化するという実験の流れになって、達成感で終わることができると感じました。一方で、周期に変化がない実験が続くことで、15秒計測に慣れていく効果もあると思えました。「啓林館」の巧みな単元配置や実験の流れに感心しました。

(教育長)「啓林館」の意見多数を受け、各委員に理科の理科「新興出版社啓林館」について諮る。

委員全員異議なし。

[生活の生活について]

- (野谷委員) 「東書」でお願いしたいと思えます。漫画風のイラストやセリフの内容が面白いと思えます。夏の虫探しでは、地域に行き、虫を探し、捕まえる、飼育する、飼育して考えたことをまとめて発表する、というのが大体的流れになりますが、資料の量が適切で、大事なことが書いてあり、図鑑も単元の巻末に入っていて使いやすいと思えました。
- (藤原委員) 「啓林館」がいいと思えます。学習の見通しが非常に立てやすい構図になっていること、保護者を意識したコメントがしっかり入っていて、保護者と一緒に読んで欲しいという姿勢が際立っていると思えました。また、教科として、理科との繋がりが感じやすいコンテンツになっているように思いました。
- (杉本委員) 「光村」は、ヨシタケシンスケさんのイラストが可愛らしく、目が引かれるものがあります。4コマ漫画風に、『どうしてだろう、なんでだろ』と哲学的な視点も入れていて、子どもたちが楽しんで、取り組めるのではないかと思えました。
- (岡野委員) 「生活」は、社会や理科に繋がっていく教科だと思っています。「東書」と「啓林館」も捨てがたいかなと思えます。写真にもそれぞれ特徴があるような感じがしました。「教出」は、子どもたちと同じ高さの目線で撮っているような写真がたくさんありました。「東書」は写真が綺麗で、植物の葉っぱの向こう側から子どもたちが覗き込んでいるような、観察を楽しんでいるような写真がありました。「啓林館」は、逆光の写真が多いのですが、日中でもストロボをたいた綺麗な写真を撮っていました。「東書」は、町や社会との繋がりという視点で見ると、自分たちが探検する町が、

地図のどの位置にあるかというメッセージを、探検エリアのズームアップや周りをグレイアウトで表現して、今からここに行くんだよ、ここを探検するんだよ、ということが分かりやすく載っていました。植物観察では、『ぐんぐんそだて わたしの野菜』というタイトルが面白くて、魅力的な言葉を使っているなと思いました。動くおもちゃを作る単元では見本の見せ方に特徴があり、単にお手本を見せるだけでなく、動かし方の原理や工夫点が載せてあることが特徴的だと思いました。

(教育長)「東書」の意見多数を受け、各委員に生活の生活「東京書籍」について諮る。
委員全員異議なし。

[音楽の音楽について]

- (藤原委員) 「教出」が良いと思います。WEBコンテンツは多くはないのですが、『学習マップ』で学びのプロセスが分かりやすく示されていると思いました。全学年で英語の歌を採用されていて、英語を使う機会を増やそうという意図が良いと思いました。「教芸」は、非常に情報量が多く、先生からすると教えやすいのではないかと思います。
- (杉本委員) 「教出」は、リコーダーの指使いの運指表が見開きで入っているので、楽譜を見ながら確認ができるため、使いやすくできています。1年生から6年生まで『さんぼ』の曲を全部手話のイラスト付きで載せていて、6年間で手話に触れる機会があるのも工夫があつていいと思いました。また、5年生では篠笛が出てきて、二宮町の祭りでお囃子が盛んなので、子どもたちも興味深いのではないかと思います。要望になってしまいますが、低学年寄りなので、高学年が触れられるようなわらべ歌や合唱の紹介があつてもいいのではないかと思います。
- (野谷委員) 「教出」が良いと思いました。1年は導入として、色々な音楽に合わせて体を動かすことで、子どもたちが自然に音楽の世界に入っていけると思いました。3年生では、リコーダーの写真が2ページに渡って大きく取り上げられて、分かりやすいと思いました。6年生の巻頭では、ピアニストの辻井伸行さんを紹介していて、言葉の通じない外国の人たちも楽しんで喜んでいたのが分かった、という音楽家の感性に感動しました。『おぼろ月夜』は、二宮町では吾妻山の菜の花や駅のメロディで縁がありますが、見開きの3ページ載せていて、美しい菜の花と夕日と田園風景が素晴らしく引き込まれてしまいました。

(教育長)「教出」の意見多数を受け、各委員に音楽の音楽「教育出版」について諮る。
委員全員異議なし。

[図画工作の図画工作について]

- (藤原委員) 「日文」が良いと思いました。児童の作品を見るのも大切ですが、「日

文」は自然と児童の絵とピカソの絵が並べられているような印象を受けました。また、2次元コードで行った先で、名画に触れられるところが非常にいいなと思いました。また、マスクをしている写真もたくさんあって、実際にコロナ禍で制作している現場の写真を撮られて、途中経過の作品を見せる意図を感じて良いと思います。他の教科との繋がりでは、どちらの教科書会社も良くできていると思いました。

- (野谷委員) 「開隆堂」でお願いしたいと思います。1点目は、写真が中心に大きくあって、イメージしやすいのが良いと思いました。2点目は、左上にこの活動で何を留意したらいいか、教師と子どもたち、家庭が共有しやすいと思いました。3点目は、図工の場合、1時間や2時間で終わらないことが多い中で、教科書の下に活動の段階があることで、今自分はどの段階なんだということが一目で分かり、見やすいと思いました。4点目は、図工で何を教えるのか、技術を教えるのか、心を教えるのかが良く分かると思いました。また、『小さな美術館』で名画から作品の世界に入り込んだり、良さを感じて、自分の作品に取り入れるなど、鑑賞の自由を子どもたちと一緒に色々なことを考えることができそうだと感じました。
- (岡野委員) 「開隆堂」を推したいと思いましたが、悩ましい選択です。「開隆堂」は、3つの工夫、ひらめき、心がそれぞれのキャラクターで表示されていて、どこをポイントで考えていけばいいのかが広がるような感じがしました。同じような視点で見ると、「日文」は、繋がる学びのマークがとても分かりやすく感じました。皆の心を動かすような名画や作品を少しずつ子どもたちに見せていくことも、大事な視点だと感じました。「開隆堂」は、6年生へのラストメッセージで、『未来へつながる図画工作、未来のことはだれにもわからない。だからこそ、わたしたちは夢をえがくことができる。』という未来志向の言葉が素晴らしく、「日文」と「開隆堂」の良さがとても悩ましいです。
- (杉本委員) 「日文」は、説明の引き出しが充実し見やすく、道具の使い方が充実していました。興味深く面白く読むことができました。

(教育長)「日文」の意見多数を受け、各委員に図画工作の図画工作「日本文教出版」について諮る。

委員全員異議なし。

[家庭の家庭について]

- (杉本委員) 「開隆堂」は、見やすくて分かりやすく、流れも自然で、丁寧で細かく親切で、色々上げたらキリが無いくらいでした。子どもに伝えたい一言がぎっしり詰まっていて、小学生だけではもったいなく、中学生や大人も学び直せる内容でした。読み物としても、とても興味深く、子どもも充分学ぶことができ、とても良かったです。
- (野谷委員) 「開隆堂」でお願いしたいと考えます。地域との関わり、環境との関わりが素晴らしいと思います。地域との関わりでは、地域の人達の関わりを見直そうと、

地域探検をして、高齢者や幼児などの地域の施設、行事、ごみの分別、防災訓練などを地域の人たちと、できることを考えてやってみようとするのが素晴らしいと感じました。環境についても、持続可能な社会を身近な地域での取り組みが掲載されているので、自分の生活から出発した環境問題を考えることができると感じました。巻末のキャリアインタビューでは、環境問題を専門にしている人がこんなに多くいると分かることが良いと思いました。

- （岡野委員） 「東書」を推したいと思います。単元の特徴は、「東書」が季節で区切った単元の構成で、「開隆堂」が項目で区切った単元の構成になっていました。日本の四季折々の良さを大事にして欲しいという思いがあるので、季節に合った単元の並びが必要なのではないかと思います。そういった点で「東書」の単元配置がいいと感じました。皆で話し合う二つの題材に注目しました。1つ目は消費者の立場として、お金を出して買うもの、必要なものを手に入れる方法がどんなものがあるだろう、と話し合う単元がありました。「東書」は、シェアをする、借りる、自分で作るなど、工夫やアイデアを皆で話し合って広げていく内容なので、とても盛り上がるのではないかと思います。「開隆堂」はノートを買う、というかなり限定したシーンになっているので、話し合いが広がりにくいかもしれないと感じました。2つ目は整理整頓で、「東書」は、部屋の散らかっている様子を見て、感じたこと、実際困ることは何だろう、というところまでをスモールステップで話し合う構成になっています。「開隆堂」は、部屋の様子を各自で感じることで、さらに改善方向までを一気に話し合う構成になっています。地域の一員という視点で見ると、「東書」は、地域と音を探そうという課題や幼稚園の子どもたちのオンライン交流が題材になっていて、今の時代に合っていると感じました。地域にインタビューという内容も、地域の人との関わりが具体的に例示されているところが取り組みやすいポイントだと感じました。

- （藤原委員） 「東書」が良いと思います。消費の中で、エシカル消費を取り扱われていて、様々な選択肢を考えることが商品に繋がる内容だと思いました。キャリア教育の視点での社会人のインタビューは「開隆堂」の方が多く取り扱っていますが、「東書」は全て動画になっており、動画を見入ってしまい、いいな、働きたいな、作りたいな、と思わせる内容だったのが、子ども達に良いのではないかと思います。「東書」の『まかせてね今日の食事』は、保護者と一緒に作りたくなる、やってみたい気持ちになり、家族としても作ってほしい、という気持ちになるような内容でした。

（教育長）「東書」の意見多数を受け、各委員に家庭の家庭「東京書籍」について諮る。
委員全員異議なし。

〔体育の保健について〕

- （岡野委員） 「学研」が一番良いと思いますが、「東書」も悩ましい選択肢の一つです。「学研」は、笑顔で笑ったり、楽しそうに走ったりする元気な状態の写真が多く掲

載されていて、この状態を目指したいと写真で訴えるメッセージが一番強かったと思います。心の悩みに関連して、SOSダイヤルのように何か悩んだときの相談先が、教科書の巻末近くにまとめられていて、情報にたどり着きやすいと感じました。

- （杉本委員） 「光文」は『どうして保健を学ぶのか』というコラムが良く、考えるきっかけがあり、バランスが良かったです。「学研」は、対話的で記述も多かったのですが、自分のこととして捉えやすく、吹き出しも工夫されていて、考えるきっかけになり、自分で考えて、答えを導き出せるという点で優れていると思いました。
- （野谷委員） 「東書」は、気づく、学習活動、学習の課題を生む、決める聞く調べる解決する、といった学習のステップがはっきりしていました。また、2次元コードと性の多様性に関する記事が充実していました。
- （藤原委員） 「東書」は、性教育、プライベートゾーンを動画で取り扱っていて良いと思いました。教えるのも中々難しいところですが、動画を見ることによって、先生も同じ内容を子どもたちに伝えることができ、子どもも大事な概念として、頭に入れることができると思いました。他の単元との学びの繋がりは、「学研」と「東書」が非常に分かりやすく書かれていると思いました。「学研」は、中学校との繋がりがあって良いと思いました。

（教育長）「学研」の意見多数を受け、各委員に体育の保健「Gakken」について諮る。
委員全員異議なし。

〔特別の教科道徳について〕

- （野谷委員） 各社の単元ごとの設問を比べてみると、多くは2つ、「光村」が3つ、「光文」が4つでした。45分の授業で2つだと、文章の読み取りをし、話し合いをすると、話が広がりすぎて、道徳としてまとまるのかな、と思いました。環境について、「光村」ではクジラとプラスチックについて、「光文」は、温暖化、異常気象、ごみなど様々ありました。自分たちに何ができるのか、どんな災害が自然界の原因になっているのか、また、自然を守るために、自分たちにできることを考えてみよう、と行動することも含めての道徳だと考えています。環境を考えるという意味では、「光文」に興味を持ちます。「東書」は、中学校で心情メーターが二宮では定着していますので、流れからだと良いと思います。
- （岡野委員） 「東書」を推したいと思っていますが、「光村」「教出」も捨てがたいです。表紙を並べたとき、「光村」の6冊の表紙は、子どもたちが成長していく様子が分かりやすく、絵のタッチもソフトで良いと感じました。「東書」は、表紙を開いた時に、各学年のマインドに訴えかける詩があり、入りが良いと思いました。一方、各単元について、それぞれの教科書会社が、単元のタイトルの横に、この単元ではどんなことを考えるのかという短い問いかけがあるのが良いと思いました。特に「東書」「光村」「日文」はその問いかけがわかりやすいと思います。設問の内容や説明の近くに挿絵が

あるかどうかが一つのポイントになっていると感じました。特に「東書」は、設問の近くにそれに対応した挿し絵が必ずセットで付けていました。特に低学年では、ほぼすべての単元で、設問の横に挿絵があつて、文字と絵で状況をイメージしやすくなっていると感じました。「光村」は話し合いのポイントが各学年の最初に載っていました。1年生から6年生まで、2学年ごとにレベルアップしていて、低学年では、うん、そうだね、となっていますが、高学年になってくると、そういった考えもあるんだね、と一旦相手を受け入れるような相槌になっていました。相槌がレベルアップしていく内容は捨てがたいと感じました。

- (杉本委員) 「東書」は、表紙に詩が書いてあり、4年生は『ちがうって、おもしろい。』、5年生は『自分をもっと、ぼうけんしよう。』、6年生は『どんな自分も、ほんとうの自分。』、この辺りにとても惹かれました。『つながる∞広がる』のコーナーでは、4年生、6年生のところはとても充実していて、消費、SNS、カイロプラスチックと様々なことを取り上げています。「光村」は、ヨシタケシンスケさんのイラストが入っていて、『なんだろうなんだろう』は、目を引くものがあり、全体的に共感を得ようと、読みやすく、とても工夫されていると思いました。
- (藤原委員) 私も「東書」の表紙が良かったです。巻頭の入り方が分かりやすく、進めやすいのではないかと思います。WEBのコンテンツも充実し、新しい教材もたくさん入っていること、巻末の心情メーターも二宮町で使っていることも踏まえて、良いと思いました。「光文」は、発言がとても良いと思います。考えようなどで、保護者と話がしやすい設問になっているように感じました。「東書」「教出」「光村」「光文」は、関連教科との繋がりが表になっているところも良い試みだと思いました。

(教育長)「東書」の意見多数を受け、各委員に特別の教科道徳「東京書籍」について諮る。委員全員異議なし。

[外国語の英語について]

- (藤原委員) 「光村」がいいと思います。動画コンテンツが充実しているため、自宅の学習にも向いていると思います。場面設定が自然で、こういう流れだったら、話したくなる流れでした。また、多国籍の子どもたちが早い段階から動画で出てきていて、色々な人たちが英語を使うということに触れる機会も充実していると思いました。
- (杉本委員) 「光村」は、動画がとても良く、キャラクターに個性があり、分かりやすく、親しみやすさがあり、場面設定も子ども達にとって見近でした。ある動画では繰り返し聞くことができ、1回聞き逃しても、またチャンスがあるので工夫されていると思いました。動画については、他の教科書会社にも言えることですが、実際のネイティブの英語のスピードよりも、大分ゆっくりのため、段階的にスピードを変えることができれば、耳を慣らすことができるかと思いました。
- (野谷委員) 「光村」でお願いしたいと思います。小学校の英語目標は、中学校とは

違い、外国の制度や表現に触れながら、コミュニケーション能力の素地を得ることになります。そのため、英語に親しみをもって、人との繋がりの中での活動が大事になります。「光村」は、情報量が比較的絞られていて、明確になっていましたが、他の教科書は、教える内容が詰まっていて、3年生が英語をやるには、少し辛いのではないかと思います。「光村」は、教師にとっても、子どもにとっても、分かりやすいと思います。

- （岡野委員） 私も「光村」だと思いました。英語の場合、ポイントが2つあると思いました。1つ目は、場面設定がしっかりされていて、意味のある英語を話すことができること、2つ目は、英語がコミュニケーションの道具だということだと思います。そういった視点で、マインドとして心掛けて欲しいというメッセージとして、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスの4つが明確に書かれているのは「光村」でした。6年生になってくると間違えを恐れずにしゃべって行こう、口から出していこう、というメッセージもありました。臆さずに話をしていくことは日本人が一番苦手とするところなので、そのマインドを払拭しようとしてくれている教科書だと感じました。

（教育長）「光村」の意見多数を受け、各委員に外国語の英語「光村図書出版」について諮る。

委員全員異議なし。

（教育長） 各委員に、審議した結果を議案第5号として諮る。

委員全員賛成により、議案第5号は承認される。

また、ホームページへの公開についても了解を得る。

（2）議案第6号 令和6年度中学校使用教科用図書採択について

（教育指導担当課長） 令和6年度中学校使用教科用図書採択について資料に基づいて説明

（教育長） 現在使用している発行者を継続してよろしいか委員に諮る。

意見等なし

委員全員賛成により、議案第6号は承認される。

また、ホームページへの公開についても了解を得る。

（3）議案第7号 令和6年度小・中学校使用学校教育法附則第9条による教科用図書採

択について

(教育指導担当課長) 令和6年度小・中学校使用学校教育法附則第9条による教科用図書採択について資料に基づいて説明。

- (藤原委員) 今までもこのような流れでやっているとは思いますが、例えば地図について、小学館ではなく、他の会社を選ぶこともあると思いますが、先生方が選んでいるのでしょうか。
- (指導班長) 特別支援学級の担任教諭と保護者が、県から配付されているリストから選んでいます。
- (藤原委員) 先ほどの議案と比べて、教育委員として1冊も読んでいない状況なので、採択するギャップが激しく感じます。
- (指導班長) 来年度は、県から配付されているリストを事前に教育委員の皆さんにお示したいと思っています。また、県教育委員会で、一定期間開示されている期間をお知らせできるようにしたいと思っています。

(4) 議案第8号 体育施設の設置、管理等に関する条例の一部を改正する条例について

— 非公開 —

5 報告・協議事項

(1) 令和5年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書(令和4年度事業分)について

(教育総務班長) 令和5年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書(令和4年度事業分)について資料に基づいて説明。

- (岡野委員) ホームページは、継続運用が重要なポイントだと思います。単に運用を工夫していくよりも、誰か1人の負担にするのではなく、作業の工数を分散する視点が必要かと思います。
- (野谷委員) 作業を分散というのは、良いアイデアだと思います。頑張っただけでは、難しいです。
- (教育長) 無理しても続かないので、できる範囲で各学校の工夫してやってもらっています。
- (岡野委員) 放課後教室に参加した子どもの人数を具体的に出してもらったのはとても良かったです。延べ人数で2,873人という数字が出て、この数字がやっぱり驚きの数字でもあり、できるだけ数字で表して、アピールすべきことだと思います。ホームページでいうと、スタートして約半年後の令和2年12月の時点で17万アクセスを越えて

いた時、驚いたし、インパクトがありました。実績を出して、皆さんに理解していただくような方法として必要だと思います。

(2) 20歳のつどいについて

(生涯学習課長) 20歳のつどいについて資料に基づいて説明。

(3) その他

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

12時47分 閉会